

令和 8 年度 豊明市立三崎小学校 第 1 回学校運営協議会

令和 8 年 6 月 1 日（月） 9:45～12:00

会議室

1 はじめに

（１） 令和 8 年度運営協議会委員について

○自己紹介

（２） 会長・副会長について

○会長 … おやじの会関係者

○副会長… P T A 会長

2 校長挨拶

運動会参観のお礼。本校の学校運営協議会は 8 年目、市内で一番最初に設立。市内の他校のモデルとなれるようにしていきたい。昨年度 2 学期から「三崎小サポーター制度」を開始。学習・図書・環境などのボランティアで、多くの地域の方や保護者が登録。さらに広がっていききたい。

「地域学校協働本部」が 4 月からスタートし、委員 1 名に地域コーディネーターになっていただき、学校と地域をつなぐ役割を担っていただいている。

熟議を始めて 3 年目。話し合ってきたことが活動に活かされていることもあるが、まだ十分に活動に活かされているとは言えないので、この後の熟議で皆様からたくさんの意見をいただきたい。

3 学校運営に関する基本的な方針

（１） 教育課程の編成に関すること

年間標準時間を確保しつつ、教員の繁忙期に業務時間確保のため、5 時間授業の日を設定。

（２） 学校経営計画に関すること

目指す学校像として「児童・保護者・地域・教職員から愛されるウェルビーイングな学校」具体的には「子どもが通いたい、保護者が通わせたい、教職員が働きたい、地域が自慢できる学校」「自律した子ども・教職員が育つ学校」「地域と連携・協働した教育活動を行い、『社会に開かれた教育課程』を実現する学校」。教育目標は、「誰一人取り残さず、自分らしく生き、これからの社会を支える自律した児童を育てる」とし、「自律」がキーワード。教職員が子どもの力を伸ばすことができる力量を高めるため、業務改善を推進。県教委資料「これからの学校」づくりにある「学校と教師の業務の 3 分類」の提示。

○学校行事について

「野外活動」と「長距離走記録会」の見直しについて、P T A 総会で説明をし、アンケートの結果を集約して、今後の計画を立てていく。

(3) 学校予算の執行に関すること

印刷製本費は、タブレットの補修や印刷の紙等に執行。

(4) 施設管理及び施設設備等の整備に関すること

特別教室（図工室、家庭科室、相談室）にエアコンの設置。

(5) 業務量管理・健康確保措置の実施に関すること

教職員が心身ともに健康な状態で、安心して教育活動に専念できる学校づくりを目的に策定。「忙しいのが当たり前」を見直し、無理をしなくても学校が円滑に運営できる体制づくりを進める。

(6) 地域連携について

クリーン大作戦では83名の方の参加。運動会テント張りではおやじの会等の力を借りて行った。

4 質疑応答・意見交換

特に質問等がなかったので、グループで「今の三崎小学校の子どもたち」の実態について話し合った。

5 学校運営に関する基本的な方針の承認 全員の賛成を受けた

6 熟議① 三崎小学校運営協議会の進め方について

テーマ「これからの三崎小学校運営協議会をどのように進めていったらよいのか」

<グループ1>

- ・アンケート結果からは育てたい子ども像が家庭・地域で共有されていない。
- ・テーマ設定は、現状でよい。
- ・P T A 総会は参加者が少ない・・・一般の方の関心が低い
- ・親と話せる機会が少ないからなのか。言い続ける、どれだけ発信できるか。
にかかっている。
- ・今の学校教育の現状を市民レベルで伝えていく。

<グループ 2>

- ・この会議の名称がかたい。協議の目指す方向とリンクした名称がよい。
- ・学校の現状は学校だよりで発信している。
- ・現役の保護者が困っていることがこの場に反映されていないのではないか。（父と母の悩みは異なる）
- ・クリーン大作戦は決まった人の参加が多い。多様な参加ができるとよい。

<グループ 3>

- ・一緒に参加しようという方向にするにはどうすればよいか。1年で変わるのは定着しない。
- ・自分の子どもにやってあげたいことをやっていく。学校発信か地域発信か。
- ・楽しい内容のアイデアをここで話し合う。
- ・会議のネーミングを親しみやすくする。

<グループ 4>

- ・熟議のテーマを事前に伝えてほしい。心の準備ができる。
- ・Mサポの活動をもっと知っていただけたら、挨拶等も地道にできるのではないかな。
- ・地域の人に学校に足を運んでもらいやすいようにしていく。
- ・ゆたか台の方はMサポの登録を回覧板でやってくれている。しかし紙で渡すより、直接話して理解していただいて登録してもらいたい。

熟議② 地域学校協働本部での地域防災の進め方について

テーマ「地域学校協働本部を活かして、地域防災をどのように進めていくか」

<グループ 1> 三崎区のみ

- ・学校での保護者・児童の巻き込み方。
- ・PTAの行事で焼き芋会を計画している。その後体育館で段ボールベッドの設営体験をしたらどうか。
- ・子どもの力、活躍は元気がでる。
- ・初動をどうするか、安否確認をカードを作って行うということを三崎区では考えている。命を守るにはどうしたらよいか。親子で決めておく。
- ・もし学校にいる時、西川区はどこに避難するのか。豊明中にいくのか。
- ・災害がおきたとき、どう行動するのかのマニュアルづくりは市でやってほしい。
- ・顔のつながりが薄くなっている。町内会も子ども会もなくなっている。最低限の家庭事情は知っていないといざという時に動けない。

<グループ 2>

- ・在校中の発災の時はどのように動くのか。親がすぐ来られる家庭はよいが、例えば西川区の子はどうなるのか。学校は学校で、地域は地域で訓練をやっている。学校

と地域のつながりは？

- ・発災してからの流れの訓練が不可欠。避難所単位での訓練が必要ではないか。
- ・西川区は地域の集まりがあまりなく、一部の役員だけが知っている。
- ・防災かるたを親子で実施すると意識が高まるかも。また、避難所運営ゲームもよい。

<グループ3>西川区のみ

- ・西川区は豊明中に避難するが、やることは一緒。
- ・防災訓練はやっているが、役員、防災隊がやっているだけで、あとの人は見学で、子どもはいない。中学校に呼びかけはしたが進んでいない。
- ・小学校の6年生ぐらいを巻き込めたらどうか。自分自身で防災を考える子はいないので、集めて体験することをしないとイケない。
- ・学校では、避難訓練を広げて総合的な学習の時間に組み入れるなどして、地域防災につなげる。大人も体験していないので、本当にやらなければならないことをやらせる。
- ・顔のつながりが必要。地域で顔をわかっている方にうまく関わってもらう。学校という場で互いを知り合う。近所の人も知らないなので、知り合うことが地域力を高めることになる。普段から通学班の子がわかるようにしてほしい。

<グループ4>

- ・子どもたちは自分がどこに避難するのか知っているのか。もちろん災害が起きた時間によって避難場所は変わるが。
- ・防災について親子で体験することが大切なので、たとえば消防署見学に親子で行くとか、授業参観で訓練をすとか。
- ・防災頭巾を持たせてほしい。
- ・防災倉庫について子どもは知っているのか。
- ・授業参観からの通学団会で、かつ見守り隊やMサポ参加でお互いを知り合う場があるとよい。
- ・子どもを中心に親と地域を巻き込む。

7 連絡・その他

○ 今後の学校運営協議会の予定

第2回 10月19日（月）10：00。第3回 2月1日（月）10：00

○ 配付資料

- ・R7年度第3回議事録
- ・豊明市学校運営協議会規則改訂版
- ・学校通信 みさき No.1、2、3
- ・学校要覧